

更に別の視点のコミュニケーションも存在する。それは学校の先生とのやりとりだ。当然のことながら学校には美術・図工や担任の先生もいるわけだが、アトリアの AIS ではその先生とアーティストが協働して授業を進めることを目指す。学校という現場とそこにいる生徒に慣れていないアーティストにとっては日頃から熱心に研究して授業を精錬してきた先生のサポートは非常に心強い。先生から見てもアーティストの活動は刺激になるだろう。しかし、目指すべき方向について両者がぶつかることもある。考え方や理想がはっきりしていれば尚更だ。ぶつかりあうのは恐ろしいことでもあるが、有益なことでもある。真剣に自身についてやりとりする機会そのものが誰にとっても貴重な成長の機会になるからだ。

時にぶつかりながらも 3 者が共に学校の中で時間を過ごして完成させる「特別な授業」。そこで生徒がつくった作品は何にも代えがたいものがつまっている。それは生徒の想いや成長の姿でもあり、アーティストが伝えたものの結晶であり、先生が導いた結果でもある。これが成果としてアトリアの展示空間で発表されるところで、一連の授業がまとまるのだ。展示そのものをより良いものにするのも講師の仕事である。アーティストとして発表を続ける彼らの考え方でプロデュースされることによって、学校内で見ていたときとは違う魅力を自身の作品に見出せるようになる生徒も少なくない。

アトリアの AIS の目的は、アートに触れる環境を学校という場につくりだし、そこにいる子どもたちの感性を敏感にすることにとどまらない。より深い人間的

な交流によって「心」そのものと対峙する実践の機会をつくり、心の根っこに近い部分を豊かにしていくことにあるのだ。

この中でアトリアスタッフが何をやっているのか、疑問に感じた人もいるだろう。スタッフの仕事はつまりコーディネイターである。第一に、接点のなかった学校（先生、生徒）とアーティストを結び付けること。第二に、その授業のコンセプトを決めることから実施までをサポートすること。第三に、彼らの活動を記録し周知すること。簡単に言えばその三点だ。

実はこのコーディネイターの仕事というのが難しい。まずは講師になり得る興味深いアーティストに声をかけ、同時に開催を希望する学校を探す。よくあるのは面白いアーティストはいれど、受け入れる学校がなかなか決まらないというケースだ。年間で 1 校 1 学年を対象とする AIS だが、川口市立の小中学校は約 80 もあり、対象になる学校・学年は多い。このギャップはなかなか埋めがたい。しかしここでなんとか講師と学校が決まったとして、ここからが仕事の本番だ。対象校において授業が受けられるのが何年生なのか、担当になってくれる先生がどんな人なのか、どんな方針を掲げている学校なのか把握した上で、アーティストからふさわしい授業のコンセプトやプランを導き出す。

もちろん授業そのものにも同席する。記録用のカメラを片手に、生徒個々人の進捗や考え方を確かめながら、話しかけたり一緒に手を動かしたり。ティーチング・アシスタントと同じような動きをしている限りは、私も児童・生徒にとって

は「なんとなく先生」であり「アトリアの人」であり、「専門家」であることは間違いない。このとき、私にとっての「現場」は学校の中になる。AIS の「現場」に居合わせるということは、その中で起きる交流の渦の中に入っていくことであり、「特別な授業」の一端になるということだ。つまり、コーディネイターも成長する人間の一人になる。

それを特に強く感じるのは、制作の授業を終えて、いざアーティストと一緒に展示会場をつくり、児童・生徒を連れてくるとき。企画展のオープン初日とはまた違った、なんとも言えない気持ちを味わう。それは安堵のようでもあり、緊張でもある。ここまで様々な人が関わり何かが生まれた過程を知っていればこそ、あるいは自分がその渦中にいたからこそ、

感慨深いというのか。それは心の根っこに近い部分を引き出す過程において、如実に変化していくスピードを強く感じているからかもしれない。その一連の授業がもう終わるという寂しさもあるわけだ。

オモテにアラワす、文字通り「表現する」ということは、それを他の誰かにも感じ

られる状態にするということだ。その過程を共に過ごした仲間は必ず同じ気持ちを共有している。それをはっきり感じる、そういう経験を一度でもしたら、物事の考え方が異なってくるのではないか。生き方の根っこを強くするきっかけがこのアトリアのアーティスト・イン・スクールに見出せるのではないか。少なくともその可能性を、私は強く感じている。



授業（オリエンテーション）の様子。コーディネイターが授業やアーティストについて紹介する
（第7回アーティスト・イン・スクール” HOMOLUDENS: PLAYING MAN”
タイダ・ヤジャレヴィチ（版画家）×川口市立芝園中学校 より）